

名古屋電気学園 クラブ活動だより

愛知工業大学
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学名電中学校
愛知工業大学情報電子専門学校

令和2年春季版

(令和2年5月15日)

※学生・生徒の所属と学年は取材当時のものです。

高校サッカー部とバレーボール部が躍動



大村秀章知事から激励を受けました

年末年始の時期、高校運動部の選手たちが大きな夢を見せました。サッカー部が、12月30日に開幕した第98回全国高校サッカー選手権大会に、創部以来となる初出場。バレーボール部は、1月5日開幕の第72回全日本バレーボール高校選手権大会(春高バレー)に、3年連続17回目の出場を決めました。



応援も「ワンスクール」の心意気で

全国高校サッカー選手権初出場!!



全国区の強豪を相手に果敢にゴールに迫る!

試合会場の応援席は、クラスメート、他部員をはじめとする生徒や学園関係者で埋まり、「一丸となって「MIDEN頑張り!」の大声援を送りました。

3年連続17回目の春高バレー!!



春高バレー2回戦・東福岡戦で



壮行会で決意表明するバレーボール部の工藤峻平主将ら



好セーブでチームを盛り立てた2年生 GK 安原哲平

「明るく前向きに！」「日本一のハイプレス！」

「明るく前向きに」をモットーとする名電サッカー部は「日本一のハイプレス」を目標に掲げ、宮口典久監督の下でチームを鍛えてきました。愛知県大会では上位リーグに所属する刈谷や中京大中京を撃破し、決勝（12月16日・パロマ瑞穂スタジアム）で岡崎城西を4-2で下して1968年の創部以来初の全国選手権を射止めました。福岡代表の筑陽学園と対戦した選手権初戦は12月31日正午過ぎ、さいたま市のNACK5 スタジアム大宮でキックオフ。前線からプレスをかける攻撃的な戦いは全国区の強豪が相手でも変わらず、序盤から果敢にゴールに迫りました。主将・DF 鈴木郁人（3年）らの堅守もチームを盛り立てましたが、前半アディショナルタイムでの失点を挽回できず、惜しくも0-1で初勝利を逃しました。

盤から果敢にゴールに迫りました。主将・DF 鈴木郁人（3年）らの堅守もチームを盛り立てましたが、前半アディショナルタイムでの失点を挽回できず、惜しくも0-1で初勝利を逃しました。

宮口典久監督の話 新人戦、高校総体とも愛知県大会ベスト4に終わり、悔しい思いをしました。最後の選手権大会は「なんとしても優勝」の気持ちで臨み、過緊張から力が出ない状況にならないかと心配しましたが、選手たちは「上手くいかない時は応援団を見て気持ちを入れよう」と決めていたようです。特に愛知県大会の準々決勝から、多数の名電生、関係者の方々の温かい声援が大きな力を与えてくれました。愛知県大会決勝では、過去最高の観客動員8000人超を記録しました。名電の力を感じ、本当に素晴らしい学園だとあらためて思います。今回は残念ながら初戦敗退となり、悔しさの残る結果です。次は「全国大会出場」でなく「全国制覇」を目標に精進してまいります。



キックオフ直前のスマイル



春高バレー・堂々の入場行進

北川祐介監督の話 大会初戦の鳥取中央育英高校戦では、最初は緊張もあり思い通りのプレーができませんでしたが、雰囲気になれた中盤から普段どおりの力を発揮し2-0で勝利しました。続く2回戦では全国屈指の強豪校である東福岡高校を相手に、名電らしい粘り強いバレーを展開しましたが、あと一步で勝利を逃しました。今回の春高バレー出場に際しまして、高校・中学の生徒・保護者・教職員・生徒をはじめ、多くの学園関係者の方々から多大なるご声援をいただきました。次の大会から新チームとなりますが、今後も全国大会上位を目指して生徒と共に練習に励んでまいります。

背水の陣からの春高切符！！

一方、名電バレーボール部の愛知県大会決勝（11月23日・ドルフィンズアリーナ）は、過去6年連続で覇を競った星城が相手でなく、その星城を準決勝で下した大同大大同と対戦しました。第1・2セットを失った名電は、背水の陣から第3・4セットを連取し、勝負の第5セットを16-14で制して春高切符をつかみました。選手権（1月5～12日・武蔵野の森総合スポーツプラザ）の1回戦は鳥取代表の鳥取中央育英と対戦



春高バレー2回戦・東福岡戦

し、第1セット25-19、第2セット25-16と連取して勝利を決めました。2回戦で、過去2回の優勝実績がある福岡代表の東福岡と対戦し、第1セットを17-25と失ったものの、第2セットを25-22と取り返しました。勝負の第3セットで一時はリードを奪いましたが、接戦をものにできず23-25と涙をのみました。

大学男子卓球部が JTTL ファイナル 4 で初優勝



大学チームで初の快挙！（写真はニッタクニュース提供）

日本卓球リーグ（日本卓球リーグ実業団連盟主催）の2019年度プレーオフとして、年間王者を決める「JTTL ファイナル4」が12月7～8日、とくぎんトモアリーナ（徳島市立体育館）で開催され、本学男子卓球部が初優勝を果たしました。大学チームによる日本卓球リーグ年間王者は、これが初めての記録です。

ファイナル4は、東京アート、協和キリン、愛知工業大学、シチズン時計の今年度上位4チームで争われました。本学は、田中佑汰（1年）木造勇人（2年）高見真己（2年）松山祐季（3年）が出場。準決勝で協和キリンを3-2で下し、決勝でシチズン時計と対戦しました。

王者を決める戦いにふさわしく、ファイナル4は全試合が5番までもつれる激戦になりました。決勝で、本学は2番の木造と4番の高見の勝利で2-2のタイスコアに持ち込み、ラストは松山が2日連続となる決勝点を挙げて初優勝を決めました。



松山祐季（写真はニッタクニュース提供）



高見真己（写真はニッタクニュース提供）

木造が初の学生個人タイトル！ 全日学選抜



木造勇人（写真は卓球レポート提供）



田中佑汰（写真は卓球レポート提供）

11月23、24日に埼玉県所沢市民体育館で開催された第16回全日本学生選抜卓球選手権大会で、本学男子卓球部の木造勇人（2年）が優勝、田中佑汰（1年）が準優勝しました。前年大会優勝の吉村和弘（現・東京アート）、準優勝の高見真己に続く、本学選手によるワンツーフィニッシュを飾りました。

10月の全日学（全日本大学総合卓球選手権大会個人の部）で準優勝した木造は、危なげなく決勝トーナメントを勝ち上がり、一方、田中は接戦を制して決勝に駒を進めました。全日学ダブルス優勝ペアによる同士討ちとなった決勝では、木造が先輩の意地を見せて4-2で田中を下し、初の学生個人タイトルを獲得しました。

世界ジュニア卓球で曾根翔、篠塚大登が団体戦銅メダル



曾根翔（写真はITTF提供）

3番手で出場。チームのリードを決める1勝を挙げ、メダルを確定させた戦いに大きく貢献しました。

ベストメンバーをそろえた中国との準決勝は、事実上の決勝戦といえる戦いでした。曾根が3番手で出場し、相手の劉夜泊選手に先手を取らせない素晴らしいプレーで大一番の抜擢にこたえました。曾根の勝利で2-1とリードした日本は、ここからの2試合を競り合いながらも2-3で惜敗し、激闘の幕を閉じました。

高校の曾根翔（2年）、篠塚大登（1年）が出場した2019世界ジュニア卓球選手権タイ大会（11月24日～12月1日）では、団体戦準決勝で日本チームは中国と対戦。本大会団体戦王者となった中国を相手に4時間を超える熱戦を繰り広げ、惜しくも勝利を逃したものの、堂々の銅メダルに輝きました。

ロシアと対戦した団体戦の準々決勝では、篠塚が



篠塚大登（写真はITTF提供）

全日本卓球・ジュニア男子で吉山僚一が初優勝



吉山僚一（写真はニッタクニュース提供）

し、会場に名電旋風を巻き起こしました。

このほか、学園の選手たちは男子シングルスで大学の松山祐季と高校の横谷、曾根の3選手がベスト16入り。男子ダブルスで大学の木造勇人・田中佑汰がベスト16、混合ダブルスで大学の松山が豊田自動織機の平野容子選手と組んでベスト8など、好成績を収めました。

丸善インテックアリーナ大阪（大阪市中央体育館）で1月13～19日に開催された全日本卓球選手権大会で、中学卓球部の吉山僚一がジュニア男子シングルス優勝を飾りました。頭角を現すスーパー小学生の松島輝空（木下グループ）が決勝の相手という注目の一戦で、吉山は第1ゲームを落としたものの、以後はペースを取り戻して3ゲーム連取し初優勝を決めました。

同種目では、高校の横谷晟も3位入賞したほか、吉山、横谷と高校の曾根翔、谷垣佑真、中学の鈴木颯の合わせて5選手がベスト8入り。この5選手に高校の篠塚大登、小林広夢、大島史也、中学の萩原啓至を加えた計9選手がベスト16入り



谷垣佑真（写真はITTF提供）

ITTF チャレンジインドネシアオープン・U21 で谷垣佑真が優勝

国際卓球連盟主催のITTFチャレンジ・インドネシアオープン（11月13～17日）に出場した高校の谷垣佑真が、男子アンダー21で優勝を飾りました。谷垣は決勝で対戦したチャイニーズタイペイの選手を3-0のストレートで下しました。高校の横谷晟も、男子アンダー21ベスト4の成績を収めました。

大学男子卓球部と中学卓球部を学園表彰

学園は、全国大会でトップの成績を収めた中学卓球部と大学男子卓球部を学園表彰しました。愛名会からもお祝いが贈られました。



後藤理事長を囲んで、学園表彰を受けた部員と指導者たち

は「日ごろの練習にしっかり取り組んでいる分、本番で成果を出すことができた」と称えました。部員を代表して吉山選手が「ここにいるメンバーみんなで獲得できた優勝でした」とお礼の言葉を述べました。真田監督は、優勝という目標設定を最後まで変えなかった教え子の心の強さを紹介し「日本の次の世代を学園の選手が担うのだという気持ちを一日も忘れることなく、精進していきたい」と誓いました。

大学男子卓球部は、昨年10月25～27日に島津アリーナ（京都府立体育館）で開催された第86回全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）男子ダブルスで木造勇人（2年）／田中佑汰（1年）が優勝したほか、11月23、24日に埼玉県所沢市民体育館で開催された第16回全日本学生選抜卓球選手権大会では木造が優勝を飾って初の学生個人タイトルを手にしました。

さらに日本卓球リーグ（日本卓球リーグ実業団連盟主催）の2019年度プレーオフ「JTTLファイナル4」に木造、田中と松山祐季（3年）、高見真己（2年）のチームで出場し、大学チームとして初の記録となる年間王者に輝きました。

表彰は2月20日に八草キャンパス本部棟で行われ、後藤泰之理事長が選手と鬼頭明総監督、森本耕平監督に賞状などを手渡しました。後藤理事長からの「さらなる飛躍を期待しています」という激励にこたえ、部員代表の松山選手と森本監督が「今後、もっと良いご報告ができるよう頑張ります」などお礼の言葉を述べました。



後藤理事長らを囲んで、部員・指導者たち



感謝状を贈られた高校チアリーディング部

この後、部員たちは買い物客に反射材などを配る街頭キャンペーンを繰り広げ、交通安全を呼びかけました＝写真⑥。

高校チアリーディング部に千種警察署長から感謝状

交通安全キャンペーンに協力している高校チアリーディング部に対して、2月19日に千種警察署から感謝状が贈られました。

チアリーディング部は千種警察署に協力し、昨年から千種区内のショッピングセンターでチアの演技を披露してシートベルト着用などを呼び掛けています。この日は顧問の瀬脇春菜教諭と代表の部員10人が同署を訪れ、八木俊男署長から感謝状などを手渡されました。



ダブルで活躍！！ 大学競技スキー部の伊原、柳本両選手



W杯第2戦で6位入賞した伊原選手

伊原遥香、ワールドカップ太舞大会で6位入賞

フリースタイルスキーのワールドカップ（W杯）は12月14日、中国の張家口・太舞でモーグル第2戦が行われ、本学競技スキー部の伊原遥香（経営学科3年）が6位入賞しました。

伊原は1年生時に全日本選手権で初めて入賞し、その後実績を積み重ねて今シーズンから全日本ナショナルチームに昇格。ワールドカップメンバーにも選出され、12月から参戦しています。今シーズン初戦となる北欧戦では18位と決勝に進めませんでした。2戦目となる太舞大会は予選を3位で通過し、決勝で見事6位に入賞しました。

全日本スキー選手権でダブル入賞

秋田県仙北市のたざわ湖スキー場で2月13～16日に開催された第40回全日本スキー選手権秋田たざわ湖大会フリースタイル競技に競技スキー部の伊原遥香と柳本理乃（経営学科1年）が出場し、伊原が3位表彰台、柳本が4位とダブル入賞を果たしました。

大会では、全日本ランキング上位の約30選手が日本一を争いました。伊原・柳本両選手は、ともに安定した滑りとエアで予選・準決勝と勝ち進み、6選手で争うスーパーファイナルへ進出。ワールドカップに参戦しているメンバーも全て出場している中での価値ある上位入賞となりました。



伊原選手（左）、柳本選手（右）

柳本理乃、ワールドカップ5位入賞 伊原遥香も8位入賞

柳本理乃は2月22～24日に秋田県たざわ湖スキー場で開催されたFISフリースタイルスキーモーグルワールドカップに出場し、モーグル種目で5位入賞しました。今季初めてのワールドカップ参戦でしたが、昨年12月の国際大会で優勝した好調をそのままに、2回目の出場となるワールド

5位入賞を決め、笑顔の柳本選手（左）と西裕之監督 カップで初入賞を果たしました。

また、3月にカザフスタンで開催された同ワールドカップでは、伊原遥香が8位入賞しました。

名電高校吹奏楽部 第55回定期演奏会

学園が主催する高校吹奏楽部の定期演奏会が1月8日、名古屋国際会議場センチュリーホールで昼夜2部にわたって開かれました。55回目となった今年は、後藤泰之理事長の挨拶に続き、高校の部全国最多42回目の出場を果たした2019年度全日本吹奏楽コンクールの演奏曲目であるマーチ「エイプリル・リーフ」と「ブリュッセル・レクイエム」を、全日本の会場と同じステージで心を込めて演奏しました。



聴衆を魅了した名電高校吹奏楽部の定期演奏会

プログラムは、伊藤宏樹教諭らの指揮による全4部構成。A・リード作曲の交響詩「オセロ（1977）」より3曲や、勇壮なステージ・ドリルなどを披露しました。

第4部は、第50回記念定期演奏会委嘱作品である「ゴールデン・ジュビレーション」（八木澤教司作曲）や、部員たちが作り上げたミュージカル「美女と野獣」メドレーなど、バラエティーに富んだ内容。客席の吹奏楽ファンもダンスで参加した「パプリカ」や、懐かしい米国テレビドラマのテーマ曲演奏などが続き、部のモットーである「絆」の強さを魅力をたっぷりに伝えました。

高校5クラブと中学1クラブに対してクラブ表彰

学園は昨年12月～今年1月にかけて、全国大会に出場の高校5クラブ、中学1クラブに対してクラブ表彰を行いました。後藤泰之理事長が「厳しい練習を乗り越えた自分たちに自信を持ち、一つでも上を目指してください」などと各部の顧問、選手らを激励しました。愛名会、高校同窓会、高校PTAからもお祝いが贈られました。

表彰されたクラブと出場大会は次の通りです。

■ 12月9日の表彰



- ▼高校サッカー部 第98回全国高校サッカー選手権大会
- ▼高校バレーボール部 第72回全日本バレーボール高等学校選手権大会
- ▼高校ボウリング部 第26回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会
- ▼高校吹奏楽部 全日本マーチングコンテスト

■ 1月31日の表彰

- ▼高校スキー部 第69回全国高等学校スキー大会(令和元年度全国高校総合体育大会)
- ▼中学スキー部 第57回全国中学校スキー大会(アルペン、クロスカントリー)

